

**製品名: Smad3 (リン酸化Ser213) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05447**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SMAD3
別名	SMAD3; MADH3; Mothers against decapentaplegic homolog 3; MAD homolog 3; Mad3; Mothers against DPP homolog 3; hMAD-3; JV15-2; SMAD family member 3; SMAD 3; Smad3; hSMAD3
遺伝子 ID	4088.0
SwissProt ID	P84022
免疫原	抗血清は、Ser213 のリン酸化部位周辺のヒト Smad3 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 179-228

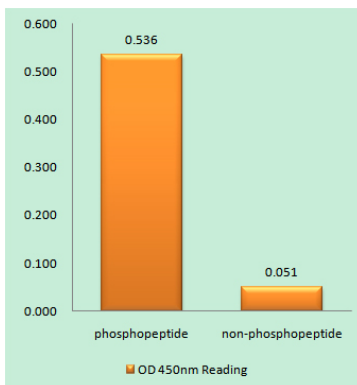
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ショウジョウバエ遺伝子「mothers against decapentaplegic」(Mad) および線虫遺伝子「Sma」の遺伝子産物に類似したタンパク質ファミリーである SMAD に属します。SMAD タンパク質は、複数のシグナル伝達経路を媒介するシグナル伝達因子および転写調節因子です。このタンパク質は、形質転換成長因子  $\beta$  によって活性化される転写調節因子として機能し、発癌の制御に関与していると考えられています。[RefSeq 提供、2009 年 4 月]、疾患: SMAD3 の欠陥は結腸直腸癌 (CRC) の原因となる可能性がある [MIM:114500]。、ドメイン: MH2 ドメインはタンパク質の核外輸送を行うのに十分です。、機能: TGF- $\beta$  (形質転換成長因子) およびアクチビン 1 型受容体キナーゼによって活性化される転写調節因子。 SMAD3 は、受容体制御性 SMAD (R-SMAD) です。、PTM:TGF- $\beta$  およびアクチビン 1 型受容体キナーゼによってセリンがリン酸化されます。、類似性:dwarfin/SMAD ファミリーに属します。、類似性:1 つの MH1 (MAD 相同性 1) ドメインを含みます。、類似性:1 つの MH2 (MAD 相同性 2) ドメインを含みます。、細胞内局在:リガンド非存在下では細胞質内に存在します。 Smad4 と複合すると核に移行します。、サブユニット:HGS と相互作用します。 TGF- $\beta$  に応答して NEDD4L と相互作用します。 TTRAP と相互作用します (類似性による)。 SARA (受容体活性化のための SMAD アンカー) と相互作用し、別の SMAD3 および co-SMAD である SMAD4 と三量体を形成します。 JUN/FOS、ビタミン D 受容体、ホメオボックスタンパク質 TGIF および TGIF2、PEBP2- $\alpha$ C サブユニット、CREB 結合タンパク質 (CBP)、p300、SKI、SNON、ATF2、SMURF2、AIP1、DACH1、TGFB111 と相互作用する。 AIP1、ACVR2A、ACVR1B、SMAD3 からなる複合体の一部である。 TGF- $\beta$  添加により、SMAD2 および TRIM33 との複合体を形成する。 SMAD2 および TRIM33 と相互作用する。 SMAD3、Ran、XPO4 との複合体を形成する。 XPO4 と相互作用する。 LBXCOR1 および CORL2 と相互作用する。

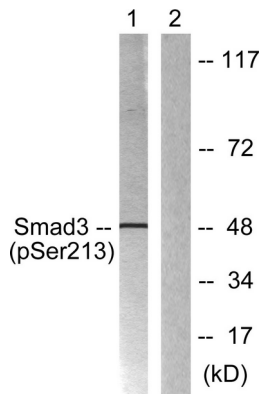
## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;WNT;WNT-T CELLTGF-beta;Adherens\_Junction;がんにおける経路;結腸直腸がん;膵臓がん;慢性骨髄性白血病;

## 画像データ



Smad3 (リン酸化 Ser213) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Smad3 (リン酸化 Ser213) 抗体を用いた HT29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。